

秋冬 autumn - winter
2017

vol.
21

春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53
横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 6 / 詩歌・俳句 7 / 観光・環境・自然・健康 8 / 立教大学人文叢書 8 / 横浜市立大学新叢書 8
東洋英和女学院大学社会科学叢書 8 / 総記・辞典・事典 8 / 言語 9 / 心理 9 / 教育 9 / 政治・経済 10 / 社会・歴史 10 / 人類学 12 / シリーズ来たるべき人類学 12
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10
【コラム】 自著を語る 5 / 横浜 9 / 書評 11



敢て軽卒に我が心既に

開けりと思ふ勿れ。

開けたる所ありと雖も、

其隠蔽する所の

猶万々なるに非ずや。

ことは
写真 『新井奥選著作集』第六巻 二六六頁より
初沢克利

『浅草2011-2016』六区ブロードウェイ日本人の肖像
(春風社、二〇一七年)より

特集

学術書出版 に向けて

二〇一七年七月五日、清泉女子大学で行われた日本比較文学会東京支部の例会にて、「学術書出版へ向けて」と題し、ソーントン不破直子先生（日本比較文学会東京支部長・日本女子大名誉教授）を聞き手に、春風社代表の三浦衛が講師としてお話ししました。その模様をお伝えします。

野の学入

三浦 春風社は一九九九年十月一日の創業以来、人文・社会科学系全般にわたって約七百点の学術書を上梓しています。私は大学を卒業後、横須賀の高校に七年間勤め、都内の出版社に十年いましたが、その会社が倒産した機に春風社を立ち上げました。春風社では今後、「野の学へ」を標榜していこうと考えています。一つの研究が研究室から外に出たときにいかなる意味を持つのかを考えていきたい。著者と編集者が一緒にあって、専門の外に出たときにも意味のある本にし、それを面白がってくださる読者が一人でも増えてくれればと願っています。

春風社を興す前に私がいた出版社は復刻を中心とした学術書を出していましたが、それまで自分は本をたくさん読んでいた方だと思っていたのですが、その出版社に入り、「世の中にはこんな本があるのか」と驚いたことがあります。たとえば「目次総覧」という種類の本。何十年も続いている雑誌や専門誌の目次部分だけを取りだしまとめて何冊かのセットにしたものです。地方の大学にいる研究者が夏休みや冬休みに国立国会図書館に来て、限られた日数で資料にあたるとき、その雑誌の「目次総覧」を事前に見ておけば当たりをつけられる。そういう形の間接的ですが真理探求に資することができる。そのため本です。「新聞集成」という本も作りました。「新聞集成 ベトナム戦争」「新聞集成 北方領土」など、あるテーマに関しての新聞がどう報道したのかが分かる記事を一定の期間で集める。テーマを一つに絞り新聞記事を並べると、いろいろなことが見えてきます。前にいた出版社でこのようなことを目の当たりにしながら、いかに積み重ねが大事か、そのことに基づくテーマ設定の重要性を勉強させて

いただきました。春風社の刊行物について考えるとき、まずは専門領域内で通用する専門書、それから大学の授業で使うテキストが挙げられます。このふたつは読者対象がはっきりしています。春風社では、もうひとつ「一般教養書」いわゆるリベラルアーツも大事に考えています。その分野の専門家ではない人でも、興味・関心をもってゆつくり精読すれば、読んで分かる本を作りたい。

「三回り、三回り外の読者」に届ける工夫

三浦 京都大学学術出版会の鈴木哲也さんと桃天舎の高瀬桃子さんが書かれた『学術書を書く』という本があります。この本のキーワード「三回り、三回り外の読者」に、私も共感しています。ソーントン この『学術書を書く』は読むべき本です。「博士論文そのままだけに本にならない」とは何度も言われていますが、学術書にするためにどう変えるべきか。最も考えなければならぬことは何か。私にも学

ぶところがたくさんありました。若い方はきつと得るものが多いと思います。三浦 私ども春風社が学術出版社として日々苦勞していることや著者の方にお願していることを事細かに書いてくださって、我が意を得たり、と思いました。今日の話も、この『学術書を書く』に多くが重なります。ほかには『学術書の編集者』（橘宗吾著、慶應義塾大学出版会）と『本を生み出す力』（佐藤郁哉・芳賀学・山田真茂留著、新曜社）の二冊も大変有益です。学術書の出版社とはどういう組織なのか、何を目標み、何を考えて学術書を世に問うているのかを教えてください。

出版のために博士論文をどう変えるべきか。出版社では何を意識して編集しているのか。まず、基本は読みやすく、論文の査読者の場合も一般読者の場合も、その人は貴重な時間を割いて読むわけですから、文章を読んでもらうために何ができるのか、ギリギリまで考え、工夫することに尽きると思います。春風社では、原稿をいただいてから、組版を行い、それから担当編集者が精読し、校正をします。その際、勝手に赤を入れることはせず、鉛筆でチェックし著者にゲラを送ります。基本的に校正は三回行いますが、やはり初校に一番時間がかかります。どの原稿も、読者が精読すればそれぞれ自分なりに理解できる文章になっているかを気にしながら編集をしています。

具体的に挙げるといろいろあります。注のつけ方はどうか、コラムはどうか、写真があつたほうがいいのか、一行の字数や一頁の行数はどれくらいが適切か。書名については、担当編集者と著者とで相談しながら、もとの論文タイトルをふまえて、例えば書店で並んだときに一般読者が興味を持ってそうなものに変更し、論文の枠組みや新しい知見についてはサブタイトルにするなどの工夫も必要かと思っています。ソーントン 「章立て」についても、『学術書を書く』に書かれていますね。三浦 機械的な感じのする当初の論文の章立てから、本にするにあたって一つ一つの見出しの魅力を意識したものに変わった例が紹介されています。この案だけがすべてではありませんが、やはり読者を意識して、



このように工夫をすることはとても大事です。

表現形式の統一や、漢字とひらがなの使い分けも重要です。共著はもろろん単著でも、いろいろな時期にいろいろな媒体に書かれたものを集めた場合は当然表記にばらつきがあります。その統一を担当編集者の仕事でもありますが、書き手としてそういうことも意識していただくと、よりこだわった編集ができます。また、日本語として読みやすい文章になつているか。例えば、あまりにも「のである」が続くと文章のスピードも落ち、意地悪に見れば、自分の知見や主張に自信がないようにも読めます。「何々して」「何々を見て」などの接続助詞「て」も、頻発するとスピードが減殺されることがあります。句読点の位置も文章のスピードにかかり、また、正確に記述せよんがために読点をやたらに振ると、主語・術語の関係や修飾・被修飾の関係が見えにくくなることもあります。どの分野でも、精緻な論理を展開し、なおかつ文章が締まり、論旨がはっきりしているものは読んでいて気持ちがいいものです。担当編集者

図版をどう配置するか、「はしがき」をどう書くか

ソーントン ここまでのところで、ご質問などはありますか。質問者A 私は図版をたくさん使う



論文を書いています。どこに置くべきかいつも悩むところで、写真をたくさん入れると論文の頁数が増えてしまう。写真がどうしても必要な場合、どのように工夫すべきですか。

三浦 図版は本文で言及されている箇所の近くに、適切なサイズで、というのが原則ですが、点数があまりに多いとうまくいかないこともありますね。図版だけをカタログのようにまとめて載せ、番号を振り、本文と対照させる方法もあります。本にする場合ですが、カラーの写真はどうしても印刷コストが高くなります。白黒の写真を入れてもそれほどコストは上がりませんが、カラーの写真を入れると結構高くなります。

真は、巻頭に口絵を設けカラー写真をもとめて掲載すれば、本文中にカラー写真を散在させるよりはコストを抑えられます。

質問者B 図版に関して、外国の美術館から作品の使用許可を得る作業は、出版社がやってくたさいますか。

三浦 はい。ただ、外国の場合、eメールで問い合わせしてもなかなか返信がなく、待たされるのが結構あります。繰り返し問い合わせても返信がなく、著者の先生と相談して断念したケースもあります。図版によつては著作権のエージェントに依頼します。著者ご自身が問い合わせてくださいることもあります。

質問者C 私は今まさに博士論文を本にしようと思つて書き直している

ところですが。目次の見直しと工夫について、何に気をつけるといいか、もしヒントがありましたら教えてくださいませんか。

三浦 見出しは難しいですね。本のタイトルも同様ですが、よく言われるように「内容をキーワードと詰めていつて、一番核にあるものをタイトルにする」のが魅力的かというところ、経験的に必ずしもそうではないと感じています。本や章の内容を絞つた一番核にあるものは、読者がつかんでおもしろい、おいしいところだと思います。それをタイトルにすると、親切なようで不親切な本になる。核のところは敢えて避けて、そこに至る呼び水になるような書名や見出しがいいのかなと感じています。

質問者C 映画の予告編のように、「もつと読みたい」と思わせるヒントを出す感じですか。

三浦 そうですね。ただ、過度にそこにウエイトがかかつてしまうと、実際に読んだ方が「タイトルに惹かれて読んだらそうじゃなかった」ということもあるのでやりすぎはよくないですが。

ようです。日本の学術書の業界ではいかがですか。

三浦 「半分以上書下ろし」などのルールは、少なくとも春風社では設けておりません。ただ、本にするにあたって、元のものをもそのまま並べるだけではなく、本として一貫性があるように書き直しなどをお願いします。

いい書評とは

三浦 本が研究室の外で読まれるためには、メディアに取り上げられることも重要です。最近、春風社で出した本で書評に取り上げられたものをご紹介します。

まずは『新版 学問の暴力(アイヌ墓地はなぜあばかれたか)』(植木哲也著)。アイヌの遺骨問題は、この本の旧版がきっかけとなり、大きな話題となりました。旧版がなくなつたので新しい情報も加えて新版を出したところ、北海道新聞に書評が掲載されました。『文学都市ダブリン』ゆかりの文学者たち(木村正俊編)は書評紙の『週刊読書人』と『図書新聞』の両紙に、『文化遺産』はだれのものか(トールコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護) (田中英資著)は『朝日新聞』に取り上げられました。

が、書評の書き方はいまだに迷います。出版社としてはどのような書評を期待されていますか。

三浦 「いい書評」とはまず、読み手の第一印象が出てくるものだと思います。この評者はこの本をどう読んでくださったんだというところがストリートに伝わってくるものがない。実は私自身も書評を読むだけでなく、依頼されて書くことがあります。そういうものを自分としても書きたい。書評のよくあるパターンとして、七割褒めて三割批判するというものがあります。それはそれで構わないのだけれど、この評者にとつてこの本がどういうものだったのかが見えてこない書評もときどき目にします。評者の第一印象、いい意味での主観が出ているものを読みたいと思つています。

費による出版助成(研究成果公開促進費)もごさいいます。これに応募なさる先生方はたくさんいらっしゃいます。競争が激しいです。申請書類が年々煩雑になっており、先生方もよく面倒だとおっしゃいます。通るには申請書類の書き方に工夫も必要だといわれています。春風社では先生からいただいた申請書類を編集者が読み、コメントさせてもらつた上で申請していただいております。

三浦 今伺つた限りでは、春風社では申請作業も割と親切にやつていただけるようですが、ほかの出版社はどんな具合なんでしょうか。

石橋 自分で申し上げるのも何ですが、春風社はかなり親切だと思えます(笑)。書類づくりにはできるだけ協力させていただいております。

ブラッシュアップされ、縮まっています。三度の校正の後、印刷所への入稿直前に担当編集者と編集長が必ずダブルチェックを行います。初版の場合間違いをゼロにすることは難しいのですが、これにより、誤植などのミスは大幅回避できます。翻訳についても、英仏語の場合は編集者が原著と照合し、疑問点などを訳者の先生に伺うようにしています。これも、間違いをなるべく少なくするための工夫のひとつです。

三浦 私も今までいろいろなところで本を出してきましたが、出版社の編集者は本当に大事です。いい編集者をつかまえないといい本はできない。私も、編集方針に納得がいかなかったり、不本意なタイトルにされたりして、いまだに後悔している本があります。出版社に翻弄されず、著者自身が出版社を能動的に選ばなければだめだと感じています。とはいっても、私たちが出版社に初めてアプローチする場合、だれが担当編集者になるかわからないし、その出版社がどういう心構えで編集しているのかもわからない。やはり、恩師や先輩に聞いて確かめるのが大事ではないでしょうか。

三浦 この仕事をしています。「本は一緒につくるもの」だとつくづく思います。著者がいて、担当編集者がいて、営業がいて、本がつくられ売られます。また、装丁も本づくりの大事な一環です。編集者が本の内容やイメージを装丁家に伝えますが、装丁家自身にも原稿を読んでもらうことで、その本にふさわしい装丁ができる。丁寧に本をつくっていくことの楽しさは、出来あがつた本にも反映されると感じています。

本を出されるときには、ぜひ「一緒につくる」ことができる出版社を選びたいと思います。本日はありがとうございました。

「もつと読みたい」と思わせるヒントを出す感じですか。

三浦 そうですね。ただ、過度にそこにウエイトがかかつてしまうと、実際に読んだ方が「タイトルに惹かれて読んだらそうじゃなかった」ということもあるのでやりすぎはよくないですが。

質問者C なるほど。もう一点苦労しているのは、本の「はしがき」と「あとがき」です。特に「はしがき」は、いきなり論文のように先行研究のレビューから始めると読者にはとつきにくいので、もう少し枕として何か書かなければと考えています。その点について、何かお考えのことありますか。

三浦 「はしがき」では内容には深く踏み込まず、本全体を貫く問題意識や意義を説き、本の輪郭を示す程度でよいと思います。手に取つてくれた方に「よし、読んでみよう」と思ってもらえる誘導になればいいですね。

質問者D もともとは学術雑誌などに載せた論文をいくつかまとめて一冊の学術書として出す場合があります。その場合、すでに発表している論文の割合に基準がありますか。外国の出版社ではそういうやり方は結構嫌われていて、半分以上書下ろしでなければ駄目というところもある

載されると次の日は相当電話が鳴りました。現在はそこまではいきませんが、『朝日』『讀賣』『日経』あたりの全国紙で取り上げられると、一週間くらいは明らかに注文数が変わります。春風社ではほとんどの本について、全国紙、地方紙、雑誌などに内容の紹介を添えて書評依頼をしています。新聞社には出版社から書評依頼の本が毎日何十冊と送られ、書評委員会が検討して取り上げます。なるべくそこで目にとめていただき、取り上げてくださるようにと工夫しています。

質問者E 私も今までたくさん書評を読んだり書いたりしているのです

助成金制度の利用

ソントン 出版費用などについて春風社営業部長の石橋さんにお話しただきます。

石橋 出版助成に関する、事務手続きや書類整備は私がやっております。今、学術書は一般市場でなかなか売れないものですから、先生方に出版助成金の申請をお願いしております。具体的な数字で申し上げますと、例えば、定価三千円の本を出した場合、千二百冊以上は売れないと出版社は赤字になります。専門性の高い学術書は売れるのがほしい五百〜七百冊です。出版費用のうちいくらかを著者側に出していただかないと出版社としてはやっつけいなというのが実情です。

多くの私立大学には助成金制度があります。私の経験上、私立大学は百万から百五十万円という額を助成していただけることが多く、中には五十万、七十万円くらいのところもあります。国立大学でも、東大や京大などでは博士論文の出版に関して助成していただけるようになっていきます。また、日本学術振興会の科研

本は一緒につくる

質問者F そもそも出版社への最初のアプローチはどうしたらいいのでしょうか。メールはよくない、電話の方がよいとか、どうでしょう。また、その際どこまで準備をしておけばよいのか、先ほどのお話にあったような博士論文からの目次の書き直しなどは大変な作業になるかと思うのですが、どこまでしていけばお話を聞いていただけるのでしょうか。

三浦 初めのお問い合わせは電話でもメールでもどちらでも結構です。春風社のウェブサイトに「出版のお問い合わせ」ページがありますので、ここからアプローチされる方も多です。テーマや分量、ご希望の刊行時期などを伺います。準備については、刊行時期にもよるので一概には言えません。全体の構成や文章がある程度まとまつたものを用意していただくと、その後の作業で同じ時間をかけるにしても、さらに内容を深めるために相談しながら本を作ることができるようになります。

春風社では、校正は少なくとも三回はやります。著者と編集者の間で行つたり来たりする中で、お原稿が

ブラッシュアップされ、縮まっています。三度の校正の後、印刷所への入稿直前に担当編集者と編集長が必ずダブルチェックを行います。初版の場合間違いをゼロにすることは難しいのですが、これにより、誤植などのミスは大幅回避できます。翻訳についても、英仏語の場合は編集者が原著と照合し、疑問点などを訳者の先生に伺うようにしています。これも、間違いをなるべく少なくするための工夫のひとつです。

三浦 私も今までいろいろなところで本を出してきましたが、出版社の編集者は本当に大事です。いい編集者をつかまえないといい本はできない。私も、編集方針に納得がいかなかったり、不本意なタイトルにされたりして、いまだに後悔している本があります。出版社に翻弄されず、著者自身が出版社を能動的に選ばなければだめだと感じています。とはいっても、私たちが出版社に初めてアプローチする場合、だれが担当編集者になるかわからないし、その出版社がどういう心構えで編集しているのかもわからない。やはり、恩師や先輩に聞いて確かめるのが大事ではないでしょうか。

三浦 この仕事をしています。「本は一緒につくるもの」だとつくづく思います。著者がいて、担当編集者がいて、営業がいて、本がつくられ売られます。また、装丁も本づくりの大事な一環です。編集者が本の内容やイメージを装丁家に伝えますが、装丁家自身にも原稿を読んでもらうことで、その本にふさわしい装丁ができる。丁寧に本をつくっていくことの楽しさは、出来あがつた本にも反映されると感じています。

本を出されるときには、ぜひ「一緒につくる」ことができる出版社を選びたいと思います。本日はありがとうございました。

哲学・思想・宗教

カント伝

マンフレッド・キューン 著

菅沢龍文 (法政大学教授)・中澤武 (早稲田大学ほか非常勤講師)・山根雄二郎 (大東文化大学教授) 訳

新たな諸資料を多く取り上げ、生涯から最晩年に至るまでをたどる。通俗的なカント像を打ち破る最も詳細な伝記、待望の翻訳！
四六判上製・二〇八頁 定価(9000円+税)
ISBN 978-4-86110-479-4



巫者のいる日常

津軽のカミサマから

都心のスピリチュアル

セラピストまで

村上晶 (百百合女子大学ほか非常勤講師)

「あの世」と交渉する力をもった霊能者、相談に訪れる依頼者、両者をとりまく地域社会——私たちの隣にいる、現代日本の巫者の姿を探る。
四六判並製・四〇〇頁 定価(3500円+税)
ISBN 978-4-86110-588-6

鈴木大拙の「日本的霊性」

エマヌエル・スウェーデンボルグ

新井奥彦との対比から

那須理香 (研究者)

スウェーデンボルグの神秘主義思想と新井奥彦の神学思想とを比較対象にとりあげ、鈴木大拙の「霊性」の特質及び、その核心に迫る。
A5判上製・三七七頁 定価(4500円+税)
ISBN 978-4-86110-554-8



教えることの哲学 ジョン・バスモア 著

小澤喬 (東京理科大学名誉教授) 訳

多義的で曖昧な「教育」(education)という概念を退け、「教える」(teaching)という営みそのものを哲学的に探究する。分析哲学の重視による批判的考察の書。
ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100

法華経諺解 上(ハングル訳注・法華経要解)

河瀬幸夫 (研究者)・金星周 (東国大学教授) 訳

一四六三年、朝鮮王朝の時代に刊行された「妙法蓮華経」中の「法華経」と北宋の戒環著「法華経要解」。中・近世の東アジア漢字文化圏における「法華経」理解の精髓。
ISBN 978-4-86110-549-4 ¥5500

哲学 はじめの一步 楽しむ／動く

立正大学文学部哲学科 編

何をすれば楽しめるのだろうか？ どうして動かないといけないのだろうか？ 高校生・大学生新入生のための哲学入門。
楽しむ ISBN 978-4-86110-541-8 ¥1500
動く ISBN 978-4-86110-542-5 ¥1500

哲学 はじめの一步

立正大学文学部哲学科 編

わたしって何のために生きてるんだらっ？、「生きる」「私」である「心」「行動する」の四つのテーマから考える、高校生・大学生新入生のための哲学入門。四冊函入。
ISBN 978-4-86110-459-6 一刷 ¥241

奥彦論集成

春風社編集部 編

明治・大正のキリスト教思想家、新井奥彦。各界屈指の論客による「新井奥彦著作集」月報掲載の論考を一書にまとめ、その人と思想を多角的に照らし出す。
ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700

おうすいボケット 新井奥彦語録抄

三浦衛 (春風社代表)・コルダニエル (福岡女学院大学教授) 編

田中正造が「亜聖」と評し、高村光太郎が愛読した、いこの思想家・奥彦。その珠玉の語録を全巻より精選。
白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1 各巻 ¥2200
黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8

朝鮮儒学の巨匠たち

韓亨祚 著 片岡龍監・解説 朴福美 訳

姿を変えたキリスト—みなし子を育てたシスターたち 菊地章太 (東洋大学教授) 著
ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200

思想家としての石橋湛山—人と時代

山口正 (石橋湛山記念財団理事長)

ISBN 978-4-86110-472-5 一刷 ¥3000
徂徠と崑崙 末木恭彦 (駒澤大学教授) 著
ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500

随想 西田哲学から聖霊神学へ

小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)

エコ・ファンタジー—環境への感度を拡張するために 山田利明 (東洋大学教授)・河本英夫 (東洋大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

越境する哲学—体系と方法を求めて

村上勝三 (元東洋大学教授)・東洋大学国際哲学研究センター 編

ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500
オール・アバウト・ラブ—愛をめぐる13の試論
ベル・フックス 著 宮本敬子、大塚田美子 訳
ISBN 978-4-86110-492-3 ¥2300

死生学—死の隠蔽から自己確信へ

岩崎大 (東洋大学研究助手)

虚構の形而上学—「あること」と「ないこと」のあいだで 中村靖子 (名古屋大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

サルトルとマルクス—II 北見秀司 (津田塾大学教授)

ISBN 978-4-86110-213-4 / ISBN 978-486110-214-1 各巻 ¥3333

【新版】待てない、か。—身体と哲学をめぐる 木田元 (哲学者)・竹内敏晴 (演出家) 著
ISBN 978-4-86110-420-6 ¥1800

長谷川宏

日々の風

暮らしのなかの哲学

16 親友の死

東大闘争のバリケードのなかで知り合い、闘争敗北後、相語らつて所沢の住宅地に小さな学習塾を開き、20年にわたつて経営の苦楽を共にした友・天野衛がこの7月に76年の生涯を終えた。

同年輩の友を失うといつも思うことだが、空虚感がなかなか埋まらない。ましてや、天野は塾講師を辞めたあとも読書会やら研究会やらで月一回は顔を合わせていた間柄だ。ふとしたことで存在の影がちらつき、胸に鈍痛が走る。C型肝炎から肝臓癌へと病が進行し外出がままならぬようになってからは、仲間が天野宅に出かけて研究会を続け、亡くなる二月ほど前の最後の会でもかれは楽しんで議論に加わっていたのだ。

質素に、穏かに日々を過ごすのがかれの生涯変わらぬ生きかたに思っていたから、一年ほど前に医者から余命宣告を受けたあとに古い翻訳の全面改訳に精力を傾けたり、何日もかけて瀬戸内海にクルーズ旅行に出かけたあたりといった果敢な行動には、目を見張られた。訳書「引き裂かれた自己」(R・D・レイン著、ちくま学芸文庫)の「訳者あとがき」に「最期

の仕事として引き受け」たとあるから、死を視野に入れたふるまいだったのだから、さて、天野の目にその死はどのような像を結んでいたことか。

訃報に接し、強い陽ざしのなか神楽坂のマンションに向かった。天野は、わたしたちが議論を交わした部屋の、本棚の前に設えられたベッドに静かに横たわっていた。声をかけそうになつて、もうことが返つてこないと思つと足がぐらついた。

悲しみと寂しさに耐えて天野夫人と故人にまつわる思い出のあれこれを話していると、ことばのしぼりく途切れたところで夫人から白い封筒を手渡された。「死ぬ二日前に天野が口述し、わたしが筆記した遺言のようなものです」と言つて。数行の文面に、40年のつき合ひの回顧と謝辞が記されていた。

別れの動かしがたさがどうしようもなく意識されるとともに、身近にせまる死を受け容れつつ冷静に來しかたを振り返る故人の精神の強さが思われた。(哲学者)

哲学の挑戦

西日本哲学大 編

沈黙の向こう側—豊崎光 追悼集 豊崎令子 監修 岩崎誠、佐久間和男、中村裕 平山規子 編
ISBN 978-4-86110-370-4 ¥3048

リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション

稲垣論 (東洋大学教授)

ISBN 978-4-86110-303-2 一刷 ¥2381
超越する実存—人間の存在構造と言語宇宙 棚次正和 (京都府立医科大学教授)
ISBN 978-4-86110-391-9 ¥4500

横超の倫理—ローティ、ハイエク、シンガーを超えて

谷口隆一郎 (聖学院大学教授)

ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333
マハーバータとラーマヤナ 前川輝光 (亜細亜大学教授)
ISBN 978-4-86110-365-0 ★ ¥3000

新しい国家—海辺の別荘で教養と信仰と哲学を語り合う

W・H・ブロック 著 澤井勇 訳

ISBN 978-4-86110-319-3 ¥2800
直接知の探求—西田・西谷・ハイテッカー・大拙 松丸壽雄 (獨協大学教授)
ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000

茶の本

岡倉天心 著 ソートン不破直子 (日本女子大学名誉教授) 訳

ISBN 978-4-86110-191-5 ¥1300
聖書における愛—イエスの愛とパウロの愛 高見伊三男 (教師) 名古屋学院大学教授
ISBN 978-4-86110-287-5 ★ ¥2200

思想のレイクイェム—加賀・能登が生んだ哲学者15人の軌跡

浅見洋 (石川県立看護大学教授)

ISBN 4-86110-068-2 ★ ¥3500
風についての省察—絶対無の息づかいをもつて 松山康國 (関西学院大学名誉教授)
ISBN 4-921146-85-3 ★ ¥3333

異教の完成者—史的イエスをめぐる謎

波多野直人 (武蔵大学教授)

ISBN 978-4-86110-351-3 ★ ¥3500
滝沢克己を語る。 三島淑臣 (九州大学名誉教授) 監修
ISBN 978-4-86110-206-6 ★ ¥3619

〈文化〉の思想—現代日本の位置から

西欣也 (甲南大学教授)

ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200
河合樂治郎の社会思想体系—マルクス主義とフアンズムを超えて 青木育志 (研究者)
ISBN 978-4-86110-272-1 ★ ¥3800

教養主義者—河合樂治郎

青木育志 (研究者)

ISBN 978-4-86110-320-9 ¥3000
ヤスハース—人間存在の哲学 吉村文男 (京都教育大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-260-8 ★ ¥4571

対話論神学の地平—私の巡礼のなかから

延原時行 (元教和学園大学教授)

ISBN 4-86110-081-X ★ ¥4286
犠牲と身代わり—記憶できないものをめつて 長田陽一 (京都光華女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-275-2 ★ ¥2200

心理臨床と脱構築の経験—〈他者〉をめぐって

長田陽一 (京都光華女子大学教授)

ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400
小林秀雄とワイトゲンシュタイン 中村昇 (中央大学教授)
ISBN 978-4-86110-106-9 ¥2500

仮説法の倫理学—ホー・ハース・ハイテッカー

村上隆夫 (群馬大学名誉教授)

ISBN 978-4-86110-309-4 ¥600
信仰の美學 阿部仲麻呂 (サレジオ会司教)
ISBN 4-86110-028-3 ★ ¥9500



文学とアダプテーション
ヨーロッパの文化的変容

小川公代 (上智大学准教授)
村田真一 (上智大学教授)
吉村和明 (上智大学教授)
文学から映画へ、ミュージカルへ、漫画へ、オペラへ。フランス、ドイツ、イギリス、ロシア、イタリア、ポスニアにおける作家・作品の諸相を探り、再創造としてのアダプテーションがもつ豊かな可能性を明らかにする。



松本清張の葉脈
南富鎮

南富鎮 (静岡大学教授)
巨大なエネルギーの集合体である清張文学を一本の樹になぞらえ、主要な特徴を提示する。葉脈とは清張が好んで使う用語で、点と点をつなぐ線の意味にもなる。

世紀末の長い黄昏

H・G・ウェルズ試論
宗洋 (高知大学准教授)
一九世紀末イギリス、科学技術教育の普及によって登場した「観察者としての読者」は、どのように小説を読んだのか？ SF文学の父・ウェルズ作品を「観察」という新しい視点から読み解く。



キャサリン・マンスフィールド

荒地を吹き渡る
風のように自由に
手塚裕子 (川村学園女子大学名誉教授)
祖国ニュージーランドを捨てロンドンやヨーロッパ各地を漂泊しながら、三四歳で夭逝した女性作家キャサリン・マンスフィールド。その波乱に満ちた生涯を、近年完成した全集や書簡集も活用しつつ克明に描き出す。

文学都市ダブリン

木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授)
スウィフト、ワイルド、ジョイスから現在の作家まで、作品を生み出す土壌となった都市ダブリンとの関係に注目しながら、文学者たちの足跡をたどる。

カポーティ小説の詩的特質

大園弘 (九州国際大学教授)
名作家カポーティの詩的特質とはいかなるものか？ 短編、中編小説を対象に多数の事例を抽出。韻と律、直喩、隠喩、その他のレトリックと詩的效果を考察する。

バルザックの文学とジェンダー

東辰之介 (駒澤大学准教授)
バルザックはフェミニスト、それともアンチ・フェミニスト？ 同時代の女性作家の作品と比較検討し、文学の豊かさの総体に迫る。

スコットランド、一八〇三年

安藤潔 (関東学院大学教授)
詩人ワーズワスの妹ドロシーの「旅行記」やコルリッジのノートブックを資料に、現地へも赴き三人の足取りを詳細にたどる。

帝国と文化

江藤秀一 (筑波大学名誉教授)
シェイクスピア、ネグリの戯曲、サイバーパンク映画、長崎の南蛮文化：「帝国」概念を鍵に、領域を越えて広がる文化の諸相を探る。

幻想と怪奇の英文学

東雅夫・下楠昌哉 責任編集
ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200
幻想と怪奇の英文学 東雅夫 (アンソロジー、評論家)・下楠昌哉 (同志社大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-404-6 二刷 ¥2700

異文化理解とパフォーマンス

松田幸子、笹山敬輔、姚虹 編著
ISBN 978-4-86110-499-2 ¥4500
ハブリック圏としてのイギリス演劇—シェイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀
ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

ペーター・フルヘル

土屋洋一 (元愛知大学教授)
ISBN 978-4-86110-481-7 ¥3200
フィリップ・ラーキン—愛と詩の生涯
高野正夫 (駒澤大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-477-0 ¥3200

T・S・エリオットの詩を解説する

滝沢博 (高岡法科大学教授)
ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200
「女の子」という運動—ワイマール共和国末期のモダンガール 田丸理砂 (フェリス学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-443-5 ¥3000

神奈川ゆかりの作家たち

最賀進 (SAIGAハウス代表)
ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500
フロンテ小説における病いと看護
川崎明子 (駒澤大学准教授)
ISBN 978-4-86110-427-5 ¥3500

敗戦・憂国・東京オリンピック

と戦後日本 洪潤科 (誠信女子大学校助教)
ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000
美しき汚れ—アサー・マンビーとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘 (県立広島大学教授)
ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000

中世英語文学 II

The Sound of Literature
菊池清明 (立教大学教授) ※本文英語
ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500
中世英語文学—その言語・文化の特質
菊池清明 (立教大学教授)
ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500

秘密のラティガン

戦後英国演劇のなかのトランス・メテア空間 大谷伴子 (東京学芸大学講師)
ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700
マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」—英国史劇とブルコニコ公国 大谷伴子 (東京学芸大学講師)
ISBN 978-4-86110-419-0 ¥2700

交錯する戦争の記憶

占領空間の文学
黄益九 (在日ロシア研究所)
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300
名譽革命とイギリス文学—新しい言説空間の誕生 富樫剛 (フェリス学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000

ジョージ・エリオットの異文化世界

高野秀夫 (駒澤大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333
トルストイと生きる
藤沼貴 (早稲田大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762

戸籍の謎と丸谷才一

ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800
ミルワード氏の英文学散歩—ルネサンスから現代へ—ビーター・ミルワード編著/橋本修一訳
ISBN 978-4-86110-167-0 ¥1800

乱歩彷徨—なぜ読み継がれるのか

紀田順一郎 (評論家・作家)
ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905
作品は「作者」を語る—アラビアン・ナイトから丸谷才一まで—ソーントン不破直子・内山加奈枝編著
ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857

朝鮮神話の源流

「ハリ公主神話」と「ダンクン神話」を巡って 金香淑 (白川大学准教授)
ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500
原典対照「ヘーオウルフ」読解
長谷川寛 (元日本大学教授)
ISBN 978-4-86110-230-1 ¥9000

イギリス イメージ断片—象と文学

要田圭治・田原光広・吉本和弘 編
ISBN 978-4-86110-278-3 ¥3333
永井荷風 ソライズムの射程—初期作品をめぐって 林信蔵 (立命館大学特別研究員)
ISBN 978-4-86110-222-6 ¥2619

名刀中条スバハバン!!!

中条省平 (学習院大学教授)
ISBN 9-921146-90-X ¥2800
アントニオ・タフッキ 反復の詩学
花本知子 (京都外国語大学准教授)
ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

自著を語る

村上晶 『巫者のいる日常』
津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで



人の心を動かす宗教とはなんだろうか。そう思って宗教学を学ぶうち、シャーマニズムに興味をもちました。本書で主に取り上げた「カミサマ」は津軽の巫者(シャーマン)を指す名称です。同じく津軽の巫者であるイタコに比べて、カミサマは曖昧な存在です。

津軽をフィールドにすると決めた当初は何のツテもなかった大学院生の私を、多くの人は少し不思議がりながらも温かく迎えてくれました。津軽弁は難しく、特に年配の方々の言葉は若い人が通訳してくれることもあります。お祭りを手伝い、食器を洗い、井戸端会議に参加しながら集落の中に入っていきうち、研究の視点が見えてきました。それが本書のタイトルにある「日常」です。

カミサマは地域社会の親密な人間関係のなかにある存在です。カミサマたちへ寄せられる相談は、誰もが抱える生活上の問題や、人生における辛い出来事です。たとえば亡くなってしまった親しい人に対して何ができるのか。供養をしているけれど、その人にちゃんと届いているだろうか。一言言葉を交わしたい、でもお寺や神社はそれをしてくれない。そこにカミサマが関わっています。

現在青森ではイタコ数が減り、カミサマが死者の口寄せを行っています。その形式はかつてと大きく異なります。しかし、形は変わっても、死者と関わりたいという願いは時代を越えて共通するものです。

また、調査を続けるうち、あるカミサマから悩みを打ち明けられることがありました。共に暮らしながらも周りから期待をかけられているカミサマは、私が外から来た調査者だからこそ自分の悩みを言えたのかもしれない。辛いときどうしたらいいかわからないから人に話す。カミサマも悩みを抱えた一人の人間なのだと思います。

宗教やシャーマニズムといっても、そこにある人々の気持ちや人間関係は特別なものではありません。興味を持っている方にも、逆にオカルトとして批判する方にも、実態を知っていただければと思います。(4頁に本の紹介)

Beowulf

橋本修一 (千葉工業大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ★ ¥2000

カズオ・イシグロ (日本) と (イギリス) の間から 莊中孝之 (京都外国語短期大学准教授) ISBN 978-4-86110-255-4 ¥3000

乱読すれど乱心せずーヤスケンがえらぶ名作 50選 安原顯 (スパーエディター) ISBN 4-921146-67-5 ★ ¥1800

『ペーオルフ』とその周辺ー忍足欣四郎先生 追悼論文集 唐澤一友 (駒澤大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-190-8 ★ ¥8000

なぜ男は笹野頼子を畏れるのか 海老原暁子 (元立教女学院短期大学教授) ISBN 978-4-86110-318-6 ¥2381

樋口二葉ー物語論・言語行為論・ジェンダー 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-348-3 ¥4000

ほくの交遊録 岡井隆 (歌人) ISBN 4-86110-044-5 ★ ¥2800

ラフカディオ・ハーンとジェイムズ・トムソンー『四季』をめぐる 先川暢郎 (元拓殖大学教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333

新版文学にひそむ十字架 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 978-4-86110-354-4 ¥2800

小出龍重と谷崎潤一郎ー小説『夢喰ふ虫』の真相 小出龍太郎・明里千草・荒川朋子 ISBN 4-86110-084-4 ★ ¥2500

小出龍重ー光の憂鬱 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-921146-34-9 ¥2200

ちよごと、教養ー20代女性のための芸術案内 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-86110-008-9 ¥1600

民話の森の歩きかた 樋口淳 (専修大学教授) ISBN 978-4-86110-273-8 ★ ¥2381

テクストの思考ー日本近現代文学を読む 林浩平 (詩人・恵泉女学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-253-0 ¥3048

ヘンリー・フィールディング 澤田孝史 (東京国際大学教授) ISBN 978-4-86110-231-8 ★ ¥4286

オーウェル文学の源流を求めてーその想像的創造力の源泉 高橋鍾 (宮崎大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-170-0 ★ ¥2800

Essays on Dickens, Forster, Austen: A Japanese Reader's Appreciation 藤田永祐 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-388-9 ★ ¥3000

ディケンズ、フォースター、オースティンーいまに生きるイギリス小説 藤田永祐 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-154-0 ¥2200

平家物語ー装置としての古典 高木信 (相模女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-139-7 ★ ¥4600

英詩に魅せられーエリオットからライキまで 堀田三郎・大飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476

Decoding Paul Muldoon: Poetics and Politics 奥田良一 (東海大学教授) ISBN 978-4-86110-176-2 ★ ¥2500

荒野へー鮎川信夫と「新領土」(1) 中井農 (同志社大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-096-3 ★ ¥3333

こんにちはチエホフー三つの短編を訪ねる 村手義治 (元創価大学教授) 編訳 ISBN 978-4-86110-279-0 ¥2000

龍の星霜ー異端の劇作家青江舜二郎 大嶋拓 (映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500

法隆寺 青江舜二郎 (劇作家) ISBN 978-4-86110-225-7 ★ ¥2800

鷗外・漱石ーフレイカリズムの起源 大石直記 (明治大学教授) ISBN 978-4-86110-175-5 ★ ¥5600

見えないものを見る力ーケルトの妖精の贈り物 風呂本武敏 (元愛知学院大学教授) ISBN 978-4-86110-094-9 ★ ¥2190

クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ 著/井原慶一郎 (鹿児島大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-474-9 ¥1500

スウェーデン民話名作集 全4巻 藪下紘一 (元駒澤大学教授) 訳 人々のさだめと神の救い、魔女や動物たちがおりなす魔法と幻想の世界。(IIは品切重版未定) I ISBN 978-4-86110-246-2 III ISBN 978-4-86110-339-1 IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905

一人の詩人と二人の画家ーD.H.ロレンスとニューメキシコK.メレル 著/木村公一・倉田雅美 伊藤芳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

いなにも同然だった男 パトリック・ルコント 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 一刷 ¥1800

愉しみは最後に パトリック・ルコント、ダヴィッド・デカンヴィル 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800

エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子 (神戸市外国語大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000

文学



『リュジエリーの秘密』と他の作品集 宇多直久 (元滋賀大学講師) 編訳

バルザックの歴史小説『リュジエリーの秘密』の新訳と、この小説に至る私信、小品、断片等を執筆順に収録。四六判上製・二九二頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-544-9

画文集 旅の貼り絵



安田彰 (元亜細亜大学教授) 日本の名所や風習、世界各国の人々とくらしを見つめるエッセイに、诗情あふれる切り絵を添える。 菊判上製・三四四頁 定価(1750円+税) ISBN 978-4-86110-546-3

八月の瓜へ 彭学明 著/立松昇一 (拓殖大学教授)・舟山優士 (翻訳家) 訳 ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500

鎌倉三猫のまふたひ ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500

翻訳ピンチ! 中条省平 SHOHEI CHUJO

20

固有名詞を訳す?

翻訳ではふつう固有名詞を訳す必要はありません。 まあ、大昔の翻訳では、シラノ・ド・ベルジュラックを白野弁十郎などとしたこともあります。これはもう翻訳というよりは翻案で、こうなると、主人公の名前のせいで、国や時代まで変えなければならなくなるので、かえって面倒です。 とはいえ、地名の場合には、例えば、パリの凱旋門のように言葉の意味を忠実に写して日本人に親しまれている場合もあります。その伝でいくと、プラス・デュ・パレ・ロワイヤル (place du Palais-Royal) は王宮広場、アヴニュ・デ・シャンゼリゼ (avenue des Champs-Élysées) は極楽ヶ原大通り、ポン=ヌフ (Pont-Neuf) は新橋ということになります。そういえば、昔(今もあるかな?) 東京・新橋のガード下にあった立ち喰い蕎麦屋の暖簾には小さく「ポン・ヌフ」と染め抜いてあって、「よっ、粋だねェ」と声をかけたくまりました。これを逆に日本語に訳すと、「新橋亭」とでもなるでしょうか。 屋号といえば、私がいま翻訳しているマンディアルグの小説は「催眠術師」という短編なのですが、このなかに Quatre

Cents Lapins という名前の酒場が出てきます。音を写せば「カトル・サン・ラパン」、意味は「400羽の兎」ということになりますが、まったくもって意味不明です。 ただ、フランス語でここからすぐに連想するのは、faire les quatre cents coups という表現です。これは文字どおりには「400発をおこなう」という意味ですが、「(子供が) 素行不良である」ことを表す慣用語なのです。 以前、あるフランス小説の邦訳書のおかげで、主人公のフランス人が日本の原宿に来て『400発』の絵葉書を買った、という一節があって、仰天しました。しかし、これは映画好きの人ならばピンと来る表現なのですね。おや、その種明かしをする字数が尽きてしまいました。この続きは次回に持ちこすことにいたします。(仏文学者)



イラスト: たけなみゆうこ

写真・音楽・芸術

いと 絲みち

吉住小三郎 (長唄三味線方) 能の梅若家に生まれ、長唄の吉住家に嫁ぐー三味線を自立の糧とした女性の見た古典芸能の世界。巻頭に坂東眞理子氏との対談を収録。片岡仁左衛門氏推薦! 四六判上製・二〇八頁 定価(1852円+税) ISBN 978-4-86110-562-3



浅草2011-2016 六区ブロードウェイ

日本人の肖像 初沢克利 (写真家) 変わりゆく浅草の風景と人々。巷にはびこるまやかしの価値観は通用しない。この街には、日本人の抱えている本質的矛盾がいかなるものかの一端が見える。荒俣宏氏ほか推薦! B5判変形並製・一五〇頁 定価(7000円+税) ISBN 978-4-86110-547-0



鎌倉三猫物語

ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500

ヒースの丘から一友、旅、暮らしの歳時記
山口弘恵 (武蔵野大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-186-1 ¥1800

エルビー・メルゲンと七つの太陽—モンゴルの
いつたえ集 塩谷茂樹編訳/Ya・バダムハ
ンド・コラム執筆 ISBN 978-4-86110-338-4 ¥1600

小作人とアサラシ女—スコットランドのい
つたえ シュティ・ハミルトン著/先川暢郎・
橋本修一訳 ISBN 978-4-86110-408-4 ¥1500

ことばのボトック
大竹昭子 (作家) 編
ISBN 978-4-86110-310-0 ¥1800

クリス・ホルディック選 コシツク短編小説集
石塚則子 (同志社大学教授) 他 編訳
ISBN 978-4-86110-298-1 ¥2500

お爺ちゃんとお大砲
オタ・フィリップ 著/北岡武司 (岡山大学名誉
教授) 訳 ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

人生の請求書
石橋幸子 (春風社専務)
ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

カフェの女主人

レイモン・ジャン 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200

モーツァルトの息子
ジャック・トゥルニエ 著/高井道夫 (元上智
大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-242-4 ¥2200

パリの小鳥売り
ロベール・ブラジヤック 著/高井道夫 (元上
智大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-250-9 ¥2200

リヴァ・ペラ パトリス・ルコント 著/桑原
隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-280-6 ¥1905

ショートカットの女たち パトリス・ルコン
ト 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-277-6 ¥2000

空にあがったハイエナー ケニア・キクユの民話
集 杜由木
ISBN 978-4-86110-301-8 ¥1600

カレワ物語—フィンランドの国民叙事詩
キルステイ・マキネン 著/荒牧和子 訳
ISBN 978-4-86110-034-8 ¥1800

愛の叙事詩 パルダイヤン物語 ミシエル・ゼ
ヴァロ 著/鈴木梯男 (神戸松蔭女子学院大学名誉
教授) 訳 ISBN 978-4-86110-223-3 ¥2800

横浜の時を旅する—ホテルニューグランドの

魔法 山崎洋子 (作家)
ISBN 978-4-86110-296-7 三刷 ¥1600

みらいのゆくすえ
しりあがり寿 (漫画家)
ISBN 978-4-86110-294-3 ¥1600

マハーヴァキナまたは巫山の夢
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957

父のふるさと—秋田往来
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ—おとぼけ社長奮闘記
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300

ヨコハマ ヨコスカ 暮末 ハリ
飯島耕一 (詩人)
ISBN 978-4-86110-040-2 ¥2800

気がつけばアメリカ人—二つの祖国に生きて
蒲生靖子
ISBN 978-4-86110-392-6 ¥1500

しりあがり寿 mini 帰ってきた大河 19 燃ゆる空

「一大事でございます！」
「どうした？」

領主日乃本輔は尋ねながらも、おおよその予想はついていた。
北の隣国が大火矢の開発に成功したので。
大火矢は今までの火矢とはくらべものにならない破壊力で
自分たちの領地を焼き尽くすだろう。

「で、西の……？」
「はっ、怒り心頭で逆に大火矢を雨のように降らすと」
北の隣国、西の大国……誰が始めようと戦になればこの国はおしまいだ。
居並ぶ重臣の方に振り返る。

「おそれながらこの国にできることは何もありません」
「ただ周囲の国のなすことを見守るしか……」
そう、交渉の当事国にもなれず我が国にできることはない。
ただせめて民の不安はおさえない。自分たちの育んできた文化の中に
何か答えはないだろうか……日乃本輔は考えを巡らした。

「空から降る災厄を避ける効果があるとすれば……かかし」
「おお！カラス除けのかかし！大火矢も同じ空から来るもの。
多少の安心にはなるかもしれませぬ」
「あとは擬人化……」
「擬人化！！さすが殿！大火矢をかわいく擬人化してしまえば恐
怖も薄らぐというもの！」

こうして隣国の大火矢は「ウンちゃん」とかわいく擬人化され、
その苦手なキャラとして設定された「トラ公」のかかしが領内いっばい
に立てられた。

「やるべきことはやったな…」
こうして日乃本輔は、カカシだらけになった
領内を見渡すのであった。



茶艶

我が師 有馬頼底 祝下

小堀宗慶 御家元
堀江恭子 (茶人)

遠州流茶道を修めた著者が一年を通じて
催した茶事の記録。四季の花と料理
におもてなしの精神が映る。茶事にま
つわるエッセイも収録。
B5判上製・三三三頁 定価(3500円+税)
ISBN 978-4-86110-567-8

【新版】北上川

橋本照嵩 (写真家)
ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500

利根川を往く
高敏 (写真家) 撮影
ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

アンドレ・バサン—映画を信じた男
野崎敏 (東京大学教授)
ISBN 978-4-86110-456-5 ¥2300

物語らないアニメーション—ノーマン・マクラ
レンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学
准教授) ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

増補改訂器としての身体—土方巽・暗黒舞
踏技法へのアプローチ 三上賀代 (京都精華大
学教授) ISBN 978-4-86110-465-7 ¥3600

フアン・メンデルズゾーン・ヘルンセル ウテ・
ビュヒター・レーマー 著 宮原勇/米澤孝子
訳 ISBN 978-4-86110-421-3 ¥2300

長唄の世界へようこそ—読んで味わう、長唄
入門 細谷朋子 (研究者)
ISBN 978-4-86110-400-8 二刷 ¥3400

映画はやる—パトリス・ルコント、自作を語
る P・ルコント 著/H・プロロモンジ 聞き
手/桑原隆行 訳 ISBN 978-4-86110-433-6 ¥3800

赤いレトロな焙煎機—遙かなる南米大陸をめ
ざして 玉川裕子 (ラジカル民族文化研究センター
研究員) ISBN 978-4-86110-495-4 ¥1500

詩集 輪郭のない自画像
木端美人
ISBN 978-4-86110-457-2 ¥2300

デテムシ 新美南吉詩歌集
石川勝治 (長崎県立大学名誉教授・斎藤卓志 (民
俗学者) 編 ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800

谷川健一全歌集
谷川健一 (民俗学者・歌人)
ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800

クワラ解体

小関与四郎 (写真家)
ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000

フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピア
アーキビズムからフランス人民戦線まで
山本友紀 ISBN 978-4-86110-405-3 ¥4500

かほちやの下で—ウガンダ戦争を生きる子と
もたち 桜木奈央子 (写真家) 写真・文/伊藤
氏貴 解説 ISBN 978-4-86110-259-2 ¥1800

世界写真紀行—美しい自然と文化を訪ねて
(海外編・国内編) 渋谷興一
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史—細部からの見方、技法のリテ
ラシー 吉田暉 (京都産業大学教授)
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

深読み映画論—『暗い日曜日』の記憶
大野真 (大妻女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-198-4 ¥1905

たたいいジャズ入門
中条省平 (学習院大学教授)
ISBN 4-86110-057-7 ¥1600

アンヘリカの選択
丸岡永乃 (画家・詩人)
ISBN 978-4-86110-337-7 ¥1800

ハブに染みるぜ！天才ジャズ本
安原顯 (スーパードクター)
ISBN 4-921146-62-4 ¥2800

フランス・ミュージカルへの招待
渡辺諒 (早稲田大学教授)
ISBN 978-4-86110-344-5 ¥2000

邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録
松菱多津男 (芸社社長)
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68—70
平沢豊 (編集者)
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

風の想い—奈津
松永澄夫 (立正大学教授)
ISBN 978-4-86110-378-0 ¥1500

邂逅
岩田澄江
ISBN 978-4-86110-324-7 ¥952

詩集 獲のプラン
いづつらば
ISBN 978-4-86110-270-7 ¥1300

山桜花
廣利千恵子
ISBN 4-86110-077-1 ¥1429

詩歌・俳句

石巻 2013.2.27 ~ 2014.5.29
橋本照嵩 (写真家)
ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500

父のアルバム
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

母のアルバム
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

「出会い」という名の劇場—演劇に生きて
岡田正子 (演出家・翻訳家)
ISBN 978-4-86110-551-7 ¥2100

カメレオン
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

観光・環境
自然・健康

- 突撃！よこはま村の100人―自転車記者が行く 佐藤将人 (神奈川県新聞記者) ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500
瀬戸内、鳥獣の旅―風景の奥を読む 伊藤松雄 (四国学院大学教授) ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800
観光地の賞味期限―暮らしと観光」の文化論 古池嘉和 (富山大学教授) ISBN 978-4-86110-120-5 ¥1800
おばさんへトナム留学記 中嶋弘子 ISBN 978-4-86110-297-4 ¥1500
おばあちゃん！豚となって木に登る 外川洋子 ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500
農の6次産業化と地域振興 熊倉功夫 (静岡文化芸術大学元学長) 監 米屋武文 (元静岡文化芸術大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-437-4 ¥2750
富士山学への招待―NPOが富士山と地域を救う 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500
失敗しないNPO―グラウンドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-333-7 ¥1500
三島のジャンボさん―ミスターグラウンドワーク 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-233-2 ¥1429
世界遺産の自然と暮らし 今井一郎 (関西学院大学教授) ISBN 4-921146-98-5 ¥1905
英和の森の植物たち―感じる、遊ぶ、食べる 中池敏之・川崎末美 (東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600
コバタンの繁殖―絶滅危惧種保存への挑戦 石川文也 (日本鳥学会会員) ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800

立教大学人文叢書

- 1 人文資料学の現在― 浦野聡他 編著 ISBN 4-86110-063-1 ¥2200
2 文学の基礎レッスン 後藤和彦 編著 ISBN 4-86110-087-9 ¥2200
3 肖像と個性 藤巻明他 編著 ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200
4 人文資料学の現在II 菅谷憲典 編著 ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200
5 書簡を読む 桑瀬章一郎 編著 ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200
古代文学史料の中心性と周縁性 立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500

東洋英和女学院大学
社会科学叢書

- 新時代のやさしいトラウマ治療―NLP、マインドフルネス・トレーニング、EFT、EMDR、動作法への招待 岡本浩一・角藤比呂志 編 最新の臨床心理学の成果をもとに、PTSDに対するトラウマ治療の手法を誰でも模倣できる形で提示・実演。 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500
EU統合を読む―現代ヨーロッパを理解するための基礎 小久保康之 編著 ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500
ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500
グローバリゼーションとリスク社会 岡本浩一・パトリシア・スイツヘル 編著 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

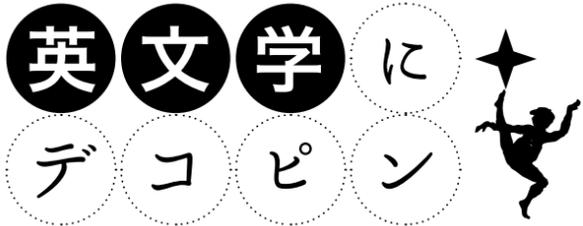
横浜市立大学新叢書

世界のミュージカル・日本のミュージカル 岩崎徹 (横浜市立大学准教授) 編 渡辺諒 (早稲田大学教授) 編 「元祖ミュージカル」のサヴォイ・オペラ、世界を席巻するフレンチ・ミュージカル、独りで人気を博す『エリーザベト』、これら海外ミュージカルと、宝塚歌劇から二・五次元作品までの日本のミュージカル―双方の歴史を紐解き、作品の発展と変容、またその可能性について考察する。 四六判並製・三〇〇頁 定価(1800円+税) ISBN 978-4-86110-570-8



- 資料を見て考えるホロコーストの歴史 ヴァンゼー会議記念館 編著／山根徹也・清水雅大 訳 ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000
韓国の財政と地方財政 鞆重鎬 (横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000
レリギオ―(宗教)の起源と変容 三上真司 (横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000
日中間戦争と中国人文学者―郁達夫、柯靈、陸蠡らをもつて 鈴木正夫 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500
天狼俳句の英訳―誓子・敏雄・綾子 古平隆 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000
過去の再演を越えて―精神的分析的ロール・プレイング 川幡政道 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000
読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭 (横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 三刷 ¥1500
普仏戦争―籠城のバリバリー 松井道昭 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-373-5 ¥3000

阿部公彦



7 クリステイナ・ロセッティ『ゴブリン・マーケット』の「ぐちゅぐちゅ」

あるイベントで作家の島田雅彦さんがロシアの詩人オシップ・マンデリシュタムの「レニングラード」という作品を朗読するのを聞いた。さすが東京外国語大学ロシア語科出身だけあってロシア語の発音は本格的。朗読後、島田さんは、「ね、ぐちゅぐちゅして聞こえるでしょ？」とコメントした。「内容もぐちゅぐちゅしてるわけさ」と説明が続く。

あ、そういえば英詩でも「ぐちゅぐちゅしてる」のがある、とこのとき私は思ったが、すぐには名前が出てこない。誰だっけ？

まもなく思い浮かんだのはジョン・ミルトンの『失楽園』。冒頭から描かれる地獄の風景は、まるで煮込みカレーとおでんの合いの子で、黒くて茶色くて灰色の、もうドロドロぐちゅぐちゅの世界である。

しかし、ほどなくしてもっとふさわしい例を思い出した。クリステイナ・ロセッティの『ゴブリン・マーケット』(妖精の市)である。ローラとリジーという姉妹が妖精に誘惑され、ローラがつい彼らの売る果物を口にしてしまう。ひとたびこの果物を口にすると、まるで

呪われたようにその虜になる……といういかにもヴィクトリア朝的な教訓性の滲み出た展開なのだが、そこに列挙される果物の風情がいかにも「ぐちゅぐちゅ」している。はじめの方のApples and quinces/ Lemons and orangesというあたりはまだそれほどでもないのだが、だんだん音に水気が増えてきてWild free-born cranberries./ Crab-apples, dewberries./ Pine-apples, blackberries./ Apricots, strawberries;―とつづき、さらにPomegranates full and fine./ Dates and sharp bullaces./ Rare pears and greengages./ Damsons and bilberries,.. となるともう完全に魔の手に落ちる。口の中がねばねばしてくる。

ストーリーとしては、最終的にリジーが身体を張ってローラに取り憑いた呪いを解き、姉妹愛を示すのだが、読み所は何と言ってもあの「ぐちゅぐちゅ」。ミルトンのものも、ロセッティのものも、ともに表向きはキリスト教的に「いけませんよ！」というメッセージを伝えるが、結果的に詩が持っている本質的な誘惑性を見せつける作品となっている。

(英文学者)

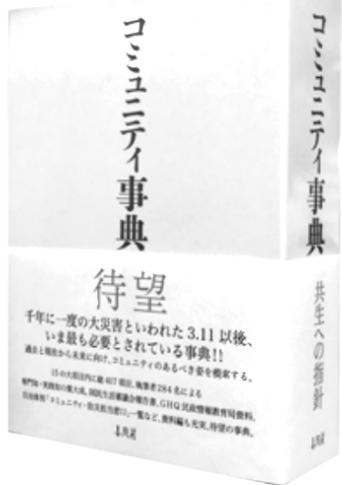
総記・辞典・事典

コミュニティ事典

伊藤守・小泉秀樹・三本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹 編

コミュニティの過去・現在・未来―いま、なぜ「コミュニティ」なのか？ 千年に一度の大災害といわれた3・11以後、いま最も必要とされている事典!! 一五の大項目内に総四一七項目、執筆者二八四名による専門知・実践知の集大成。 A5判上製・二七〇頁 定価(25000円+税) ISBN 978-4-86110-538-8

- 【主要目次】 1 総論 コミュニティの思想と歴史 2 総論 国家・地方制度のなかのコミュニティ 3 総論 近代日本社会とコミュニティ 4 総論 ボランティア、NPO、NGOとコミュニティ 5 総論 グローバル化とネット・コミュニティ 6 総論 変容するエスニック・コミュニティ 7 各論 まちづくりとコミュニティ 8 各論 社会計画・社会開発とコミュニティ 9 各論 福祉とコミュニティ 10 各論 安全・安心とコミュニティ 11 各論 災害・復興とコミュニティ 12 各論 アジアのコミュニティ 13 各論 欧米のコミュニティ 14 各論 コミュニティ・プランニングの対象と方法 15 各論 コミュニティ・スタディーズの対象と方法



発信型

日本人が使いこなせない フランス基本単語小辞典

久松健一 (明治大学准教授) 著 Michel Gonçalves (英・仏会話学校代表) 実際に話し言葉で使われる表現を軸に、約一八〇〇の例文で「使える表現」が一気に増える！ 自然な言い回しを身につけるための小辞典。初級レベルを脱するために最適。 四六判並製・三四八頁 定価(25000円+税) ISBN 978-4-86110-563-0



日本語のホライトネス再考―発話行為・発話媒介行為・相互行為

菅川洋子 (神戸親和女子大学教授)

ベトナム語母語話者のための日本語教育―ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案

松田真希子 (金沢大学准教授)

英語と開発―グローバル化時代の言語政策と教育

英語の名詞をきわめる―可算名詞と不可算名詞の使い分け

第二言語学習と個性性

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II

フランス語時制論―発話行為のテキスト言語学

ジョンソンと「国語」辞典の誕生―十八世紀巨人の名言・金言

啓蒙思想下のジョンソン辞書―知の集成を指して

英語教育の精神と実践―コミュニケーションから英米文学まで

フェイリス相互作用理論―日本語学習クラスにおける相互作用からフェイリスワークをとらえる

英語のルーツ

はじめての論文―語用論的な視点で調査・研究する

L'interaction Exolingue: Analyse de Phenomenes Metalinguistiques

「俗語」から「国家語」へ―スペイン黄金世紀の言語思想

自由と尊厳を超えて

浮田徹嗣 (横浜市立大学准教授)

環境心理学―環境デザインへのパスベクティフ

ロール・プレイング―即興劇による人間の探求と治療

魂のかけら―ある物理学者の神秘体験

フランス語名詞・動詞連語辞典

ブラジル雑学事典

ニューズランド百科事典

ダンテ神曲原典読解語源辞典

現代日本語モングル語辞典

歴史的思考

その不自然な行為

渡部竜也

歴史的思考、歴史家特有の思考とは何か？

子どもの内面とは何か

子ども

漢字の世界

留学生の見た漢字の世界

漢字学習への創造的アプローチ

漢字の世界

あの「マスター」に会いに

喫茶 樹林 〒232-0023 横浜市南区白妙町 1-3

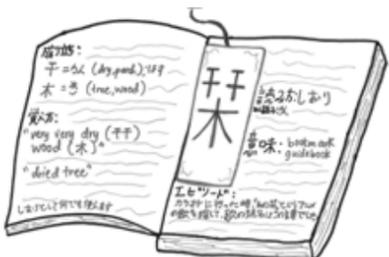


「いらっしや〜い」。買い物客でひしめく横浜橋商店街から一本路地を入ると、喫茶店「樹林」の店主・田中常介さんが柔らかな声でお客さんを迎える。

とある日、空店舗の売り札を発見。その瞬間、ここできなにかやろう!と思いつく。自身は引き続き衣料店を営みつつ、在庫のない商売をと、昭和58年に喫茶店をオープン。

皆から親しみを込めて「マスター」と呼ばれる田中さんは、お客さんとおしゃべりが心底好きだそう。いろいろな考え方にふれることができ「すごく勉強になる」。

YOKOHAMA



漢字マップ作品例

真正の学び／学力―質の高い知をめぐる学校再建 フレッド・M・ニューマン 著／渡部竜也(東京学芸大学准教授・堀田論(東京成徳大学講師)訳

八〇年代以降の米国の教育運動をもとに学びのスタンダードと学校教育の質の向上を提言。 ISBN 978-4-86110-525-8 ¥2200

人生の調律師たち―動的ドラマツールキーの展開 藤川信夫(大阪大学教授) 編著

社会学者E・ゴッフマンの演劇理論をもとに、豊富な事例分析から(支援者・被支援者)の相互行為を読み解く。 ISBN 978-4-86110-540-1 ¥2200

教育実践の昭和 横須賀薫(元十文字学園女子大学学長)

ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000 絵本から「子ども福祉」を考える 青木文美(愛知淑徳大学准教授) 編

ISBN 978-4-86110-514-2 ¥2400 現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来 末松裕基(東京学芸大学准教授) 編著

ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300 日本統治下台湾の教育認識―書房・公学校を中心に 呉宏明(元京都精華大学教授)

ISBN 978-4-86110-505-0 ¥2500 世界初市民性教育の国家規模カリキュラム 渡部竜也(東京学芸大学准教授) 編訳

ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722 コモン・グッドのための歴史教育 リンダ・S・レヴステイク／キース・C・バートン 著／渡部竜也他訳

ISBN 978-4-86110-445-9 ¥6000 教師のゲートキーピング―主体的な学習者を生む社会科学カリキュラムに向けて S・J・ソーントン 著／渡部他訳

ISBN 978-4-86110-328-5 ¥2857 変革的知識人としての教師―批判的教授法の学びに向けて ヘンリー・A・ジルー 著／渡部竜也訳

ISBN 978-4-86110-375-9 ¥3333 キリスト教人格教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授)

ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300 いのちを育む教育学 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授)・大川洋(国際基督教大学上級准教授)

ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200 アメリカ教育福祉社会史序説―ビミニテイング・ティーチャーとその時代 倉石一郎(京都大学教授)

ISBN 978-4-86110-416-9 ¥3000 物語が始まるとき―共創教育の現場から 青木幸子(昭和女子大学准教授)

ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークシートで学ぶ 生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木見 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

日中教育学対話―川三 勞凱声／山崎高哉 共編 ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私はどのような教育実践をめざすのか―言語教育とアイデンティティ 細川英雄・鄭京姫 編 ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

体当たり校長の学校づくり―8年間のニューズレター 横山芳春(豊見城市立座安小学校校長) ISBN 978-4-86110-340-7 ¥2381

子どもの心にとく授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司 編著 ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峽を越えて―京畿高等女学校の思い出 太田孝子(岐阜大学教授) ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

母の愛が奇跡を生む―発達の遅れに挑むライニング・ホックス学習法 立川勲 編 ISBN 978-4-86110-098-7 ¥1500

戦前感化・教護実践史 佐々木光郎／藤原正範 ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

昭和戦前期の少年教護実践史(上・下) 佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 ¥4800 下 ISBN 978-4-86110-331-5 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 末本誠(神戸大学大学院教授)／松田武雄(中村学園大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くN―E―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎(横浜国立大学名誉教授) 編著 ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

実感から関係化へ―ある重度重複障害者と関わりつて 遠藤司(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-237-0 ¥2381

増補「いい子」の非行―家裁の非行臨床から 佐々木光郎(元静岡英和学院大学教授) ISBN 4-921146-91-8 ¥1800

テューン・人間性実現への教育―米国内カリキュラム開発を考える 海谷則之(龍谷大学名誉教授) ISBN 4-921146-57-8 ¥2857

幼児キャンプ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

先生、いのちのことを教えて―引き揚げから養護教諭へ 引地ユリ ISBN 978-4-86110-269-1 ¥952

政治・経済



中国興業銀行の崩壊と再建

第一次大戦後フランスの政治・経済・金融的対抗

篠永宣孝(大東文化大学教授)

中仏両国によって一九二三年に設立された銀行の盛衰を、歴大な一次史料や民間銀行史料を駆使して究明した世界初の本格的実証研究。 A5判上製・八〇〇頁 定価(8000円+税) ISBN 978-4-86110-565-4

国際コミュニケーションの政治学

本多周爾(武蔵野学院大学教授)

情報化の波が複合的に交錯し、激しく変動する国際コミュニケーションを、政治とマス・コミュニケーションの視点から分析、検討する。 四六判上製・三四頁 定価(3000円+税) ISBN 978-4-86110-524-4



ポストモダンの処方箋

20 似非ピューリタニズムの時代 白井聡

いない。服飾品の類の売れ行きも良くなる。

要するに、ここに現出している似非ピューリタニズムは、道徳的糾弾の外被を纏った何か途方もない倒錯なのだ。そこにあるのは、自己の生活に対する不全感を他者の引きずり降ろしによって解消しようとする卑しい衝動にすぎない。

この衝動が政局にまで影響を及ぼすようになるに至った今日、それは看過し得ないものとなった。政治家の私生活に対する今日のような穿鑿は明らかに危険である。不義を働いた政治家は、自分の配偶者や家族に対しては裏切りを働いたとは言えるが、国民一般に対して害を与えたわけではない。にもかかわらず、このような穿鑿がまかり通って責任を問われるのだとすれば、それは暗に、政治家に対して道徳的卓越性を求め、道徳の指導者たることを求めていることとなる。そこに現れるのは、誰をどのように愛すべきかについて政治的権力者に教えてもらう社会だ。卑しい衝動が生み出すのは卑しい社会である。

(政治学者)

いつからか日本は、不義密通に関しておそろしく厳しい社会になった。芸能人が、文化人が、そして政治家が、次々に私生活を暴かれ、事実上の私刑を受けている。

無論これは、日本人の貞操観念や性道徳観の厳格さを意味してはいない。わずか二〇年前には『失楽園』(渡辺淳一)に熱狂していた人々が、どの口で「不倫は許しがたい」などと口走れるというのか。

また、普段は「何が何でも経済成長を」と叫び、あたかも社会内の全行為は経済成長に貢献すべきであるかのごとく考えている人々も、こと不貞事件に関しては、いつもの主張を完全に忘却するらしい。ヴェルナー・ゾンバルトの古典『恋愛と贅沢と資本主義』によれば、近代資本主義の勃興に際して「恋愛」(とりわけ婚外恋愛)の貢献は多大であった。近代都市は、「道ならぬ恋」に場を与えるホテルやレストラン、劇場等が繁栄することによって発展したのだという。

現代でも事情は同じだ。不倫が大いに流行れば、映画館や劇場の席は埋まり、ホテル・旅館は満室、金曜午後の新宿発箱根行きロマンスカーは満席となるに違

社会・歴史

戦後小樽の軌跡

地方都市の衰退と再生 内藤辰美(山形大学名誉教授)

佐久間美穂(川村学園女子大学講師)

なぜ小樽は戦後に衰退したのか? 三〇人以上の小樽市民を丹念に取材し、コミュニティ解体の過程と生活者の実態を徹底的に考察。地方創生の時代における国家と都市の新たなあり方を模索する。 四六判上製・四三四頁 定価(3800円+税) ISBN 978-4-86110-526-5



都市の遺産とまちづくり

アジア大都市の歴史保全 鈴木伸治(横浜国立大学教授) 編

グローバル化時代のもと都市の画一的な再開発が猛烈に進むなか、アジアの都市文化の多様性をどのように継承すべきか? 九都市における、歴史と文化を活かした都市再生の先進事例を紹介。 B5判上製・三三頁 定価(3200円+税) ISBN 978-4-86110-560-9

「新自由主義」をぶっ壊す 青木育志(研究者) ISBN 978-4-86110-226-4 ¥1600

生命の経済学―生物学による経済学再構築 富森茂児(北海道大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-161-8 ¥2381

世界金融危機日中の対話―円・人民元・アジア通貨金融協力 上川孝夫・李曉編 ISBN 978-4-86110-203-5 ¥3500

フランス帝国主義と中国―第一次世界大戦前の中国におけるフランスの外交・金融・商工業 篠永宣孝 ISBN 978-4-86110-136-6 ¥5714

アメリカの対日通貨政策の形成―1971―2003年の日米通貨交渉を事例として 増永真 ISBN 978-4-86110-359-9 ¥2700

日中比較産業史―取引慣行と制度に見る戦前期日中経済的特質 四方田雅史(静岡文化芸術大学准教授) ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700

医療制度改革の比較政治―一九九〇～二〇〇〇年代の日・米・英における診療ガイドライン政策 石垣千秋(山梨県立大学准教授)

医療の質を保ちつつ、医療費を抑制する。医療制度改革という技術的な専門性が高く、不確実性が高い分野の政治はどう展開するのか。 ISBN 978-4-86110-534-0 ¥5400

新版学問の暴力ーアイヌ墓地はなぜあはれたか

植木哲也 (吉小牧駒澤大学教授)

知はいかにして権力性と暴力性を帯びるのか。二〇〇八年の旧版に二〇一六年までの新たな経緯を補記。

ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400

「フォーク」からの転回ー文化批判と領域史

小長谷英代 (早稲田大学教授)

アメリカにおいて「フォーク」はどう見出され位置づけられてきたか。「アート」「ヴァンキュラー」「パフォーマンズ」など5つのキーワードからみる文化研究の思想史。

ISBN 978-4-86110-535-7 ¥4300

ミットフォードと釈尊ーイギリス人外交官の見た理想郷日本

アルジャーノン・B・ミットフォード著／大西俊男 (元三重大学教授) 訳

幕末と明治に活躍した英国外交官が日本で見たものは。本邦初訳。

ISBN 978-4-86110-524-1 ¥2200

都市近隣組織の発展過程ーコミュニティガバナンスの日本比較論

大内田鶴子 (早稲田大学教授)

日本の近世から現代の住民組織の変遷と、米国のネイバーフッド・システムの多角的に比較することで、日本の近代化を考察。

ISBN 978-4-86110-527-2 ¥2000

東亜連盟運動と石原莞爾

内村琢也 (研究者)

一国民主義的な運動へと変容したのか。東亜連盟運動が政治運動から宗教に支えられた文化・生活運動に転化した経緯を明らかにする。

ISBN 978-4-86110-522-7 ¥2000

素描・杉原千畝

小谷野裕子 (エッセイスト)

平和への願い、祈りと希望ー杉原千畝の生まれ育った場所、暮らしたさまざまな国の風景や人々を訪れ、丹念に集めた新たな知見をもとに人柄を描き出す。

ISBN 978-4-86110-528-9 ¥1800

天馬山ー北朝鮮からの引揚げ者の語り

浅井亜紀子 (桜美林大学教授) 編著

一九四五年八月三日、ソ連軍の侵攻により家族自決を決意した父。しかし、息子は「生きたい」と言った。北朝鮮・清津中学校の元生徒たちが苦難の引揚げ体験を語る。

ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200

インド・イスラーム王朝の物語とその建築物ーテリール・スルターン朝からムガル帝国までの五〇〇年の歴史をたどる

宮原辰夫 (文芸大学教授)

一次史料をもとに、インドに多数残るイスラーム建築をめぐる知的ガイドブック。

ISBN 978-4-86110-509-8 ¥2700

「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男ー日本近代スポーツの父・岸清一物語

古城庸夫 (江戸川大学准教授) 昭和初期、スポーツの普及と平和に半生を捧げた男が追い続けた「東京オリンピック開催」という壮大な夢。その偉業の、知られざる軌跡をたどる。

ISBN 978-4-86110-484-8 ¥2000

歴史教科書とナショナリズムー日本とドイツ

原口健治 (青山学院大学教授)

ドイツの歴史教科書におけるナチズムを厳しく追及する記述は「自虐的」だろうか。歴史教科書問題の背景にある、国家・国民像とアイデンティティのあり方を考える。

ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700

宝は田からーしあわせの農村民俗誌 山形県米沢 佐野賢治 (神奈川大学教授)

人々の「しあわせ」を願った柳田民俗学を継ぎ、山形県置賜地方の人々の、自然との対立・協調・共生の営為を描く。変わりゆく現代世界を見据えた民俗誌。

ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500

先生、NPOって儲かりますか？ー若者たちが地元で賢く生きる方法 渡辺豊博 (元都留文科大教授) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

今、田村明を読むー田村明著作選集 鈴木伸治 (横浜国立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-508-1 ¥2000

ケニアへかけた虹の橋ー30年の国際ボランティア活動 NPO法人「少年ケニアの友」編 ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1833

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

米国の沖縄占領と情報政策ー軍事主義の矛盾とカモフラージュ 吉本秀子 (山口県立大学教授) ISBN 978-4-86110-451-0 ¥6500

ホストセリングを知っていますか？ー日本の子ども向けテレコムの実態 山下玲子、藤井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000

変容するテレコミュニケーションとキャスターの役割 深澤弘樹 (駒澤大学准教授) ISBN 978-4-86110-432-9 ¥3400

婚姻連帯論と社会学ーレヴィニストロース、デュルケムをめぐって 門口充徳 (成蹊大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900

ペリールと黒船祭ー日米文化外交史 佐伯千鶴 (北アラバマ大学准教授) ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200

雛の誕生ー雛節供に込められた対の豊穡 皆川美恵子 (十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800

スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナッペイ著／藤野成爾訳 ISBN 978-4-86110-413-8 二刷 ¥1800

地域と越境ー「共生」の社会経済史 内田日出海・谷澤毅・松村岳志編 ISBN 978-4-86110-407-7 ¥3500

多文化組織の日本人リーダー像ーライフストリー・インタビューからのアプローチ 石黒武人 ISBN 978-4-86110-322-3 ¥3000

不思議フランス 魅惑の謎 藤野敦子 (京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 一刷 ¥1800

台湾ーメディア・政治・アイデンティティ 本多周爾 (武威野学院大学院教授) ISBN 978-4-86110-216-5 ¥2381

前川教授の人生、血液型。ー血液型が信じられる34の理由 前川輝光 (亜細亜大学教授) ISBN 978-4-86110-396-4 ¥1500

保守のヒント 中島岳志 (東京工業大学教授) ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800

変容する冷戦後の世界ーヨーロッパのリハラル・デモクラシー 永松雄彦・萬田悦生編 ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381

空間のエスノグラフィー 文化を横断する 川床靖子 (大東文化大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-367-4 ¥2700

学習のエスノグラフィー タンザニア、ネパール、日本の仕事場と学校をフィールドワークする 川床靖子 ISBN 978-4-86110-113-7 ¥2381

「敵国語」ジャーナリズムー日米開戦とアメリカの日本語新聞 水野剛也 (東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-258-5 ¥5200

日系アメリカ人強制収容とジャーナリズムーリハラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦 水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600

中心と周縁ータイ、天草、シカゴ 佐久間美穂 (川村学園女子大学講師) 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-369-8 ¥3500

1920年代の日本と国際関係ー混沌を越えて「新しい秩序」へ 杉田米行 (大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500

ネットワーク社会と空間のポリティクスー都市・モダニティ・グローバリゼーション 大澤善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800

フラジルの都市問題ー貧困と格差を越えて 住田育法 (京都外国語大学教授) 監修 ISBN 978-4-86110-173-1 ¥3619

フランス革命を旅したイギリス人ーリグビー博士の書簡より E・リグビー著／川分圭子訳 ISBN 978-4-86110-171-7 ¥2381

貧困をどのように捉えるかーH・ガンスの貧困論 西村貴直 (関東学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-343-8 ¥3333

イングランドの地名ー起源と歴史を訪ねて K・キヤメロン著／吉見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286

ラルテ・ヴェトラリアー17世紀初頭のガラス製造術 アントニオ・ネリ著／日本ガラス工業学会編 ISBN 978-4-86110-131-1 ¥5000

表象のウェネツィアー詩と美と悪魔 鳥越輝昭 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800

イランとイスラームー文化と伝統を知る 森茂男 (元大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-215-8 ¥2381

旅する対話ーティラスボラ・戦争・再生 姜信子 (作家) ザーラ・イマーエワ (映像作家) ISBN 978-4-86110-350-6 ¥1800

現在と性をめぐる9つの試論ー言語・社会・文学からのアプローチ 小玉亮子 (お茶の水女子大学教員) 編著 ISBN 978-4-86110-117-5 ¥1800

太平洋問題調査会「1925-1961」とその時代 山岡道男 (早稲田大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-211-0 ¥4600

サステイナブルな社会を目指して 木村武史 (筑波大学准教授) 編著 ISBN 978-4-86110-141-0 ¥2381

ガラスの文明史 黒川高明 (元日本ガラス工業学会理事) ISBN 978-4-86110-172-4 ¥4762

移行期ロシアの繊維産業ーソビエト軽工業の崩壊と再編 藤原克美 (大阪大学准教授) ISBN 978-4-86110-317-9 ¥4000

インターネット文化の諸相ーグローバリゼーションを生み出す戦略 若林一平 (元文芸大学教員) ISBN 978-4-86110-267-7 ¥3333

マスメディア論ー現場と社説と地方紙と 大西正行 (十文字学園女子大学特任教授) ISBN 978-4-86110-228-8 ¥1800

グローバリゼーション、市民権、都市ーヘクシスの社会学 岩永真治 (明治学院大学教授) ISBN 978-4-86110-140-3 ¥3333

国際社会学の実践ー国家・移民・NGO・ソーシャルビジネス 三橋利光 (東洋英和女学院大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-263-9 ¥2381

国際社会学の挑戦ー個人と地球社会をつなぐために 三橋利光 (東洋英和女学院大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-142-7 ¥2381

ヒトから人へー「人前」への民俗学 佐野賢治 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381

物権法概説 小泉健 (一橋大学法学長) ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800

僕の解放前後ー一九四〇ー一九四九 柳宗典著／白燦訳／太田孝子 日本語校員 ISBN 978-4-86110-164-9 ¥2800

かの冬、そして秋ー僕の朝鮮戦争 柳宗典著／白燦訳／太田孝子 日本語校員 ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800

世間師・宮本第一の仕事 斎藤卓志 (民俗学者) ISBN 978-4-86110-156-4 ¥2200

保生大帝ー台北大龍峒保安宮の世界 尾崎保子 (元昭和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-105-2 ¥2800

牡牛と信号ー「物語」としてのネパール 山本真弓／序・佐々木幹郎 (詩人) ISBN 4-921146-60-8 ¥2200

『カント伝』

マンフレッド・キューン 著／菅沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳



毎日必ず厳密に同じ刻限を守って散歩に出かけるカントを近隣の住民が時計代わりに用いていたという逸話は、その真偽はともかくとして広く知られた戯画的なエピソードであるが、マンフレッド・キューンの『カント伝』は、このような機械的・規則的な生をただ平坦に過ごしたというステレオタイプなカント像を払拭し、カントの全生涯を多角的な視点から再構築する試みといえる。本書序文によれば、こうした表象は彼の教え子たちの回想録がそれぞれの意図や立場のためにカントの実像を歪めていること、そして老年のカントの描写に偏っていることに起因する。そのため、カントの伝記の執筆という仕事には資料上の制約が絶えず付きまとい続けているのだが、そのことは寧ろ本書にある独特の面白味を与えてくれているようにも思われる。

著者キューンはカントの人となりに関する証言の妥当性を逐一検証し、また、推測する以上のものでない領域へと踏み込む際には常にその論拠を提示する。言い換えると、キューンはカントの生涯を描写しながら、同時にカントの人生を一幅の広大な絵画として眺めるだけでなく、キューンの論理が辿った思考の筋道を浩瀚な注釈をよすがとして味読することもできる。著者が注において参照指示する研究論文や18〜19世紀当時の出版物の一部は電子的なアーカイブを介して容易に閲覧可能であり、一昔前ならば私のような一般読者では持て余すほどの細かな典拠情報なども、今や読書の楽しみを広げる手段に変わりつつある。

原著の注や書誌情報の類を一切省いた邦訳書さえ出回ってしまう現今の風潮に反して、完訳というかたちで1000頁を超える訳書を世に問い、さらには注と本文を行き来する読者の便宜を図って二本の葉紐まで付するという訳者・編集者の方々の熱意は、今後到来する人文知の未来の在りようを私に垣間見させてくれた。

◆吉成優 (東京大学 人文社会系研究科 基礎文化研究専攻 美学芸術学 博士課程/専門: 18世紀フランスの美学、美術評論)

(4頁に本の紹介)

人類学



文化遺産はだれのものか

トルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護

田中英資 (福岡女学院大学准教授)
様々な時代の遺跡が重層的に残り、文化遺産の盗掘や返還の問題を抱えたトルコ。政府・研究者・報道・コレクター・国際機関等、過去の痕跡をめぐり、国内外の主張から、「文化遺産」という概念を問い直す。
A5判上製・三〇頁 定価(3700円+税)
ISBN 978-4-86110-3548-7



建築人類学

読む・描く・造る

牧野冬生 (駒沢女子大学特任准教授)
居住空間を、住民によって読まれるべき身体化された「テクスト」と捉え、建築行為を全体を民族誌として読み解く。フィリピンの不法占拠地域の調査を試みる、建築学と人類学の融合！
A5判上製・三〇頁 定価(4000円+税)
ISBN 978-4-86110-539-5

貧困と連帯の人類学

ブラジルの路上市場における一方的贈与
奥田若菜 (神戸外国語大学准教授)
首都ブラジリアの衛星都市、セイランジャで働く路上商人たちは、警察の取締りから逃れながら、働き者であることを誇り、困っている人に手を差し伸べる——路上商人たちの「正しさの規範」と「善さの規範」から、階層を越えた連帯の作法を探る。
四六判上製・三五六頁 定価(3700円+税)
ISBN 978-4-86110-532-6



- The Agricultural Mongols
ホルジギン・ブレンサン (滋賀県立大学准教授)
ISBN 978-4-86110-543-2 ¥6000
「共感」へのアプローチ—文化人類学の第一歩
渥美一弥 (自治医科大学教授)
ISBN 978-4-86110-497-8 ¥2000
霊媒のいる街—北タイ、チェンマイの宗教復興
興 福浦一男 (桐蔭横浜大学准教授)
ISBN 978-4-86110-489-3 ¥4000
〈紛争〉の比較民族誌—グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混沌
丹羽典生編著 ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700
つなかりの民族誌—中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索
金繩初美 (西南学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-487-9 ¥5000
実践と感情—開発人類学の新展開
関根久雄 (筑波大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-469-5 ¥3500
現代アジアの宗教—社会主義を経た地域を読む
藤本透子 (国立民族学博物館准教授)
ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200
途上と目的地—スペイン・サンティアゴ・徒歩巡礼路 旅の民族誌
土井清美
ISBN 978-4-86110-466-4 ¥4000

- 聖なる鉄鑿スロベニアの民族誌—バリ島トウガナン・ブクリンガン村の生活、信仰、音楽
野澤暁子 ISBN 978-4-86110-440-4 ¥4700
ショー・パフォーマンスが立ち上がる—現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係
大門 碧 ISBN 978-4-86110-449-7 ¥4500
誰が差別をくぐるのか—エチオピアに生きるカファ・マンビエの関係誌
吉田早悠里 (南山大学准教授)
ISBN 978-4-86110-402-2 ¥4900
ハワイ人とキリスト教—文化の混濁とアイデンティティの再創造
井上昭洋 (天理大学教授)
ISBN 978-4-86110-426-8 ¥2700
ヘランカの贈り物—北方狩猟民カスカと動物の自然誌
山口未花子 (岐阜大学助教)
ISBN 978-4-86110-383-4 ¥3200
Social Development, Culture, and Participation
阪本公美子 (宇都宮大学准教授)
ISBN 978-4-86110-174-8 ¥6476
Dominio provincial en el Imperio inca
渡部森哉 (南山大学教授)
ISBN 978-4-86110-431-2 ¥4630
Estructura en los Andes Antiguos
渡部森哉 (南山大学教授)
ISBN 978-4-86110-371-1 ¥5714

- インカ帝国の成立—先スペイン期アンデスの社会動態と構造
渡部森哉 (南山大学教授)
ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619
増殖するシャーマン—モンゴル・ブリヤートのシャーマニズムとエスニシティ
島村一平 (滋賀県立大学准教授)
ISBN 978-4-86110-299-8 ¥7500
The Roots Seekers: Shamanism and Ethnicity among the Mongol Buryats
島村一平 (滋賀県立大学准教授)
ISBN 978-4-86110-397-1 ¥6667
タワ—タンザニア、反乱と治療をもたらす謎の概念
岩崎明子 (文化人類学者)
ISBN 978-4-86110-389-6 ¥3333
ナショナリズムと宗教—現代インドのビンドゥー・ナショナリズム運動
中島岳志 (東京工業大学教授)
ISBN 4-86110-048-8 ¥2619
癒しと呪いの人類学 (第二版)
板垣明美 (横浜市立大学准教授)
ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800
ウエトナム—変化する医療と儀礼
板垣明美 (横浜市立大学准教授) 編
ISBN 978-4-86110-145-8 ¥2381

来たるべき人類学 (全五巻)



- 1/セックスの人類学
奥野克巳・椎野若菜・竹ノ下祐二編
イルカやサルの性生活から、セックス儀礼、SM、性転換、ペニスピンまで、フィールドワークを通じて動物と人間の性に肉薄。その多様性に驚き、あきれ、考え込む。
ISBN 978-4-86110-180-9 ¥1905
2/経済からの脱出
織田竜也・深田淳太郎編
われわれは何に囚われているのか? 「危機」から経済の彼方へ。生命、市場、時間、貨幣、感情、宗教、贈与、古代、環境、プリコラージュ。新たな知が、危機のなから姿を現す。
ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381
3/宗教の人類学
吉田匡興・石井美保・花湖馨也編
「理解しがたい」に、わたしたちに影のように寄り添っている—宗教を解きほぐす。改宗、顕示的消費、憑依、呪物、アニミズムなどをフィールドから得た知見をもとに論じる。
ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905
4/アジアの人類学
片岡樹・シンジルト・山田仁史編
アジアの捉え方、フィールドワーク論から始まり、「焼畑」「牧畜」「狩猟採集」「漁撈」「モノ」「親族」「ネットワーク」「ヨーロッパの中のアジア」など、人類学の視点でアジアを捉える。
ISBN 978-4-86110-357-5 二刷 ¥2381
5/人と動物の人類学
奥野克巳・山口未花子・近藤秋編
こんなに深く広い、人と動物の関係! ヘラジカと話す男、ゴリラに「なる」人間、狩猟者に身を捧げたウサギ: ペットや家畜としてだけでなく、多様な人と動物の関係を探る。
ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

刊行予定 (タイトルは仮)

- ▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版 大地の哲学 小野寺功▼仏教偏頗の研究 岩松浅夫▼よく生きるための死生観 岩崎大▼カントの人文権思想 菅沢龍文▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼古代ギリシャの死生観 木原志乃▼法華経諺解 (下) 河瀬幸夫▼哲学的断章 北岡崇▼ブルー・マルクス 庭園の美学 荒井芳廣訳▼キルケゴールを読む 河上正秀▼翻訳と倫理 静岡大学翻訳研究会▼新井興選集 コールダニエル▼深い河の流れ 長谷川(問瀬) 恵美▼フィネガンズ・ウェイク 奥田良二▼Contemporary Irish Plays 佐竹晶子▼ポール・ボウルズ論 外山健二▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へII 中井農▼文学という名の愉楽 寒河江光徳▼アグリアスに魅せられて 大月和彦、深田晋一▼ペーオウル フ吉見昭徳訳▼身体と感情を読むイギリス小説 武田美保子▼中央ヨーロッパ歴史と文学 桂元嗣▼T. S. Eliot 山口敦子▼D. H. ロレンスと雌牛スーザン 木村公一、倉田雅美、小林みどり訳▼拡大するジョイスの世界 田村章▼ブルースト、鐘の音が響くカフェで 田村奈保子訳▼アレゴリーで読むアメリカ 武田悠一▼外見の修辞学 福井崇史▼ジョー・オートン 矢島直子▼グロテスク 美のイメージ 武末祐子▼黄金と緋山 詩的風景 太陽と黄昏と夜 高野正夫▼横浜の若き表現者たち 細見葉介▼暮らしの日本語 (スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼視覚スキーマを用いた意味拡張機つげの分析 栗田奈美▼ウェルズ語の歴史 小池剛史訳▼自律のための教育学 大川洋▼雑刀と学校教育 井上アヤ子▼野の学校 佐々木光郎▼薬物依存の当事者が支援するということ 南保輔、中村英代、相良翔編▼障害の重い人たちの事例研究集 遠藤司▼居場所 萩原建次郎▼擬人化の心理学 北村文昭▼グローバル時代の人間形成 獨協大学編▼教育と他者 橋本憲幸▼ハンナ・アーレント教育のリーダーシップ 末松裕基、生澤繁樹、橋本憲幸訳▼健康自然塾 川村協平▼「ユノ多」の人間観・世界観に基づいたスピリチュアルケア 小西達也▼アメリカ人の生活と学校カリキュラム 渡部竜也訳▼アメリカ教育福祉社会史序説II 倉石郎▼現代中東政治学 末近浩太▼アメリカの戦争 堀真理子他▼社会的システム理論の軌跡 赤堀三郎▼エッセイ風都市社会学 吉瀬雄一▼イラン人とは誰のことか 八尾師誠、坂梨祥、齋藤正道訳▼社会学批判と現代 内藤辰美▼韓国 地方民家 佐々木史郎▼コーポレート・ステークホルダー 豊田聡▼スイスの謎 加藤幸治▼東アジアの秩序 若下哲典他▼エネルギーと財政の社会学 湯浅陽一▼異色の経済学者フリードリヒ・リスト 諸田實▼ポリンジャーの「マスメディアの自由」論 池端忠司、小林伸一訳▼グローバリ都市を生きた人々 橋原敦子▼益裁 川崎仁美▼ミドルブラウ 木下誠他▼親子とは何か 梅津

春風掃人

秋田では寂しいことを「とじえね」。徒然からの転訛でしょう。子供のころ、とじえねわらし(童)でありました。とじえねとじえねと、お念仏よろしく唱え右往左往していましたが、まぶしさをこらえながら小学校へ通うようになり、授業でセンセーの話の話を聞いていううちに、とじえね気持ちはだんだん薄くなり、消えて無くなりはいしなけれど、ささくられたつづつがいつしか平らになつていきました。これ、つたなき原体験。しかし原体験は根を張り、やがて芽をふきます。学術書の編集をならわいにして三十年ちかくなりありますが、学術書を一冊一冊作っていると、当時の気持ちは、ふとよみがえることがあります。学術書は、私にとりまして授業でセンセーが話すおはなしに近く、いただいた原稿に對峙し集中し、精読しているうちに、尾てい骨のあたりに果食うとじえね気持ちはスーッと。哲学、宗教、文学、教育学、人類学、社会学、心理学、浩瀚な事典、辞典類だつて。センセーが話すおはなしに変わりはなく、ライフワークにしている研究の一端に目を凝らし、耳を澄ませているうちに、広々とした野原へ連れ出され息を深くしている自分に気づきます。仕事を通じて、ことばの果実を食いつつ、身もこころも軽くなり、だんだんだんだん軽くなり、シャボン玉飛んだって、いつかなつてくれないかな…。何度目かのHPリニューアルとあわせ、野の学を標榜しつつ、学術書の面白さを伝えていきたいと思います。(三)